

## アジア4カ国歴訪に同行

2017年1月12日から17日まで、安倍晋三総理のフィリピン、インドネシア、豪州、ベトナム4カ国歴訪に同行する機会を得た。総勢76社に及ぶ経済ミッション団の1人として招待されたものだ。私は一足先に当社の現地法人のあるマニラへ飛び、現地で合流することにした。

日本・フィリピンビジネス会合で、私は次のようにフィリピンでの取り組みを紹介した。

「当社のフィリピン現地法人 Itto Seisakusho Philippines Corpは1996年に設立しました。タイでの合弁会社設立を断念して、あえてフィリピンに決めた背景には①進出企業への税制優遇

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 23



安倍首相（前列右から6人目）、ドゥテルテ大統領（同5人目）と私（同2人目）

②フィリピン人の高い教育レベルと語学力③日本に対する世界屈指の友好国④日本から近く、同じ島国で国民性などに共通点が多い―ことがあります。

## フィリピン進出は正しかった

アジアでは日本以外で最も早く自動車生産を始め、モノづくりのセンスが良いことも大きな要因です。マーケットの小さなこの国に進出することに、当初は反対もありましたが、結果は大成功でした」

「現地スタッフは皆、金型づくりが楽しそうで、『会社もイトウサンも大好きだ』と言ってくれます。設立以来、家族的な経営に心掛け、わずか7年で日本レベルの技術を皆が習得したため、日本人技術者が全員帰国できました。今やインドネシアやタイから、メイド・イン・フィリ

ピン”の金型は高く評価されています」

「17年4月には精密金型の『輸出専用工場』が完成し、5年後の22年にはアジアナンバーワンの生産量を目指します。精密金型のフィリピンと言われる時代はもうすぐです。13年にはインドネシアにも進出しましたが、操業開始にあたってフィリピン人のトップ技術者4人が、金型製作の指導にあたりました。日本の技術がマニラ、そしてマニラからジャカルタへ伝わることになりました。当社のフィリピン進出が正しかったことが、お分かりいただけましたことと思います」

ビジネス会合終了後、フィリピン政府の大勢の関係者が、微笑みながら握手を求めてきた。駐在のシエトロの皆さんにも大変喜ばれた。